

1 目的

人権尊重の精神に基づき、人権感覚を磨き、人の痛みの分かる豊かな感性を培うと共に、人権が尊重される学校づくりに向けた具体的な態度や行動がとれる児童の育成を目指すことを目的とします。

2 内容

(1) 人権タイム

毎月1回、全クラス、「人権タイム」を設定しています。3～6年までの児童は、「やくそくノート」を活用しながら、ソーシャルスキルトレーニング等を通して、コミュニケーションスキルを身に付けるための学習活動を行います。

(2) みとめあい・たすけあい・はげましあい集会

12月上旬の「人権週間」にあわせ、人権尊重への理解と人権意識の高揚を図ります。今年度のテーマは「助け合い～広げよう やってみよう～」です。集会では、学校生活の中でみんなのためにがんばっている友達を紹介し、互いに支え合っていることを確認すると共に、相手への感謝の気持ちの発表を行います。集会の最後には「あなたにありがとう」の全校合唱をし、仲間と支え合い、共によりよい生活を目指そうとする気持ちを、さらに高めることを目指します。



【「がんばったねカード」見学】

(3) 教育相談

年に2回、hyper-Q-U検査を行い、それを基に学級担任が、クラスの児童一人一人と教育相談を行います。児童の気持ちや悩み等に気付くことで、児童の心に寄り添った指導を行います。

3 評価

(1) 人権タイム

人権タイムにおいて、人との関わり方やスムーズに人間関係を築ける技術を、「やくそくノート」を使って実践的に学ぶことができました。これにより、互いが気持ちよく生活できるスキルが身に付きつつあります。

(2) みとめあい・たすけあい・はげましあい集会

全児童が、毎日の生活の中で、みんなのためにがんばっている友達について「がんばったねカード」に書き、集会の会場に掲示したり、代表者が発表をしたりしました。この集会を通して、互いに助け合い、励まし合って生活しようとする気持ちを、高めることができました。

(3) 教育相談

hyper-Q-U検査を実施し、それを基に担任が児童一人一人と教育相談を行

いました。いじめの早期発見の機会にすると共に、個々の悩みについてアドバイスを行いました。この取組により、児童の心の不安を取り除くと共に、学校生活不適応が増加することを防ぐことができました。

4 課題

「自分を大切にすると同様に他人を大切にできる」、「人の立場に立って物事を考えられる」という目標を掲げ、人権が尊重される学校づくりに向けて取り組んでいます。児童の中には、知識としてこれらのことが理解できていても、まだまだ十分な実践力が身に付いているとはいえません。今後も、人権尊重の実践力を、より確かなものにするため、地道に研究を進めていきます。



【人権タイム】

1 目的

ペア学年で小グループをつくり活動することにより、異学年の交流の活性化を図り、仲間意識を高めます。その活動の中で、助け合い、認め合い、思いやり、相手への感謝等、児童に人権が尊重される学校づくりに向けて具体的な態度や行動がとれる実践力を、養うことを目的とします。

2 内容

各学期に、以下の予定でペア学年での交流活動を行います。

(1) 4月～7月

6月・7月に20分間の放課に運動場及び室内で、リーダーを中心にして、ペア学年で一緒に遊ぶ機会を設けます。

(2) 9月～12月

10・11月の2回、20分間の放課に運動場及び室内で、リーダーを中心にして、ペア学年で一緒に遊ぶ機会を設けます。

(3) 1月～3月

2月上旬に「ふれ合い集会」を実施し、大縄跳び大会を実施します。



【ペア学年ふれあい活動】

毎学期、1年と6年、2年と5年、3年と4年で、2つの学年がペアになって、レクリエーション交流活動を行います。上の学年は下の学年をいたわったり、下の学年は上の学年の子に感謝の気持ちをもったりする等、相手の立場に立った人間関係づくりを学びます。

3 評価

1年と6年、2年と5年、3年と4年の異学年でペアをつくり、交流活動を行うことで協力して活動しようとする姿勢、思いやり、譲り合いの精神を養うことができました。また、異学年の仲間との交流を通して友達や教師から認められ、頼られる存在だと感じる体験を重ねることで、子ども一人一人の自己有用感を高めることができました。

4 課題

異学年集団での活動を通して、協力して活動しようとする姿勢、思いやり、譲り合いの精神を養うため、活動内容のさらなる充実を図ることが課題です。

1 目的

講師や学習支援員を招いて、外部人材の教育力を取り入れた教育活動を推進します。

2 内容

(1) 特別支援学級の生活単元講師

生活単元の授業において、特技を持った地域の方を講師として招き、工作や調理実習等を行い、生活面で必要とされる技能の習得を図ります。

(2) 刷毛の先生（4年生対象）

甚目寺地区が世界に誇る刷毛作りについて講師を招き、話を聞くことで、甚目寺地区の刷毛産業について理解を深めると同時に、地域への愛着や誇りに思う気持ちを高めます。



【刷毛の先生】

(3) 人権理解教室（6年生対象）

ハンセン病について講師を招き、話を聞くことで、人権についての理解を深めると共に、人権意識の向上を図ります。

(4) 星空教室（4年生とその保護者対象）

津島天文クラブの方を招き、星について話を聞くと共に、実際に天体望遠鏡での星空観察を実施し豊かな心を育みます。

(5) 「クレーム対応向上研修」についての現職教育研修

講師を招き、4つの基本手順（①当事者である意識を強く持つ②保護者の心情を理解し、そのことを行動で示す③解決すべき問題・ご要望の確認を行う④問題の代替案・解決策を冷静に提示する）を身に付けることで、クレーム対応の基本的なスキルの習得を図ります。

3 評価

(1) 地域の方による生活単元の授業

地域の方を講師として招いて、さまざまな物品を組み合わせて、想像力あふれる作品を製作し、児童に必要な生活能力や技能を高めることができました。

(2) 刷毛の先生による授業

日本でも有数の刷毛の生産地である甚目寺地区で、実際に刷毛を作っている方々から、刷毛の歴史・作り方・働くことの苦楽などの話を聞くことで、甚目寺地区の刷毛産業について理解を深めることができました。地域を誇りに思う気持ちを高めると共に、正しい勤労観・職業観を養うことができました。

(3) 人権理解教室

小笠原博士の偉業について学ぶと共に、正しい知識をもたないことからくる差別について、考える機会を持ちました。その中から、誰もが幸せに生きる権利をもち、それを侵害することは許されないという態度を養いました。

(4) 星空教室

星空教室で講師の先生から、星についての話を聞き、実際に土星や火星や月を天体望遠鏡で観察しました。自然の美しさ，雄大さ，神秘性を感じるこの体験を通して、子どもたちに豊かな心を育むことができました。

(5)「クレーム対応向上研修」についての現職教育研修

具体的に、相手の立場になって心情を理解することの重要性を理解した上で、ケースごとの対応方法を知ること、現場で役立つ実践力が養われることを学ぶことができました。

4 課題

専門的な知識や、これまで積み重ねてきた経験に基づいた講師の方の一言一言は、重みがあり、児童の心に響くものがありました。今後、専門的な知識と技能を持った方々を、いかに発掘し活用していくかが一番の課題です。